

昭和20年										
年月日										
8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	<p>概</p> <p>要</p>
11	25	22	20	15	14	11	10	10	10	
<p>興安出発</p> <p>○</p> <p>金川小隊（長 中尉 金川 迪明）</p> <p>鉄嶺において部隊解散</p> <p>奉天省鉄嶺着</p> <p>奉天省康平街通過法庫着、同地において武装解除、同日奉天省法庫発</p> <p>停戦同日奉天集結のため鄭家屯出発</p> <p>四平省鄭家屯着</p> <p>白城子発</p> <p>主力は興安出発龍江省白城子着</p> <p>興安市内の警備</p> <p>をもつて編成完結</p> <p>興安南省興安において第七四兵站警備隊を基幹として憲兵、情報部の一部を</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>										
<p>通称号 強第三七四〇二部隊</p> <p>関東軍第一特別警備隊第一〇大隊 略歴</p>										
<p>摘要</p>										

2661

至自												
8	8	8	8	8	11	10	10	10	10	10	8	8
9	27	14	12	11	30	30	26	23	1	1	29	22
<p>王府において小隊長以下若干名は別行動となり齊々哈爾に向う 主力は番山において遊撃拠点を構成 番山出發途中、景山、土爾地哈を経て 小民屯着 齊々哈爾第一八作業大隊編入 齊々哈爾出發 滿洲里經由入「ソ」</p> <p>○</p> <p>野口小隊（長 野口少尉） 自動車により興安を出發したが途中自動車故障のため列車により新京經由 四平着 主力に合流のため四平出發 茂林において「ソ」軍と交戦し部隊解散</p> <p>○</p> <p>阿爾山派遣隊（長 大尉・立花正雄） 關東軍情報部興安支部分派機関から編入すべき要員をもつて阿爾山において 特別警備隊第一〇大隊の一部を編成中日「ソ」開戦</p>												

七の内

2662

8

10

阿爾山において「ソ」軍と交戦後牛分台↓五叉溝↓西口において戦鬪を交へ
爾後第一〇七師団と行勳を共にし損害多数を出した。

大隊長 大佐 金川 耕作

2663

昭		年 月 日	概 要
20			
7			
至	自	8	関東軍第一特別警備隊教育隊 略歴 通称号 強第三七四〇二部隊
至	自	10	
至	自	15	
至	自	22	
至	自	16	
		10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令 奉天において第六二兵站警備隊を基幹とし憲兵および現地応召者をもつて編 成完結 同日より市内の警備 停戦 奉天において武装解除 奉天第三六作業大隊に編入 奉天出発 黒河経由入「ソ」 大隊長 中佐 志村 行雄
		10	摘要

2664

		年		月		日	
		昭		20			
		10		9		7	
		16		10		10	
大 隊 長 中 尉 市 川 忠 治		黒河經由入「ソ」		奉天出発		奉天第三五作業大隊に編入	
				奉天収容所に入所		奉天において武装解除	
				現地応召者の一部召集解除		停戦	
				市内の警備		奉天において関東軍通信隊よりの転入者を基幹として編成完結、同日より	
				軍令陸甲第一〇六号により編成下令			
				概要		要	
				摘要			

八の内

関東軍第一特別警備隊通信隊 略歴

通称号 強第三七四〇二部隊

2665

		昭					昭
		20					19
		10	9	9	8	7	10
		19	27	21	15	1	11
年月日	概	要					
	<p>通称号 満第七〇四部隊 強第一三一〇七部隊</p>	<p>軍令陸甲第一三五号により編成下令奉天省本溪湖宮の原にて編成人員約將校四名、下士官六名、兵二〇名 ごろ教育召集を実施引続き警備召集 停戦、現地召集者召集解除 奉天第五二作業大隊に編入 奉天出発 黒河経由入「ソ」</p>					
		<p>隊長 大佐 上野 貞治 (20・7・30まで) 代理 中尉 野村 俊三</p>					
	摘要						

2666

昭		昭		年月日	概要	摘要
20		19				
8	8	1	4			
昭20年8月8日		昭19年1月4日			<p>通称号 強第二六九三部隊</p> <p>特設警備第六〇三中隊 略歴</p>	
<p>中隊長 中尉 鈴木光雄</p>		<p>停戦</p> <p>爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施</p> <p>士官三名をもつて本溪湖警備隊本部内において勤務</p> <p>軍令陸甲第一号により奉天省本溪湖にて編成し常置人員四名(将校一名下)</p>				

2667

昭			昭	年 月 日	特設警備第六〇四工兵隊 略歴 通称号 強第三一五八部隊
20			19		
8	8	8	9		
	19.	15	10	8	概 要
隊	長	少尉	坂井	静雄	
本溪湖にて部隊解散			停戦		摘 要
以後警備召集を実施			爾後同地付近の在郷軍人を短期間教度にわたり召集し教育を実施		
			常置人員四名(将校一名、下士官三名)		
			軍令陸甲第一二八号により奉天省本溪湖にて編成		

2668

至 自		昭 20		昭 19		年 月 日	撫順警備隊本部 略歴	
10 10 9 9 8 8 8 7 10 10		17 14 17 16 20 15 9 20 11 1						概
隊 長 大佐 原 田 文 夫 (編成時)		黒河經由入「ソ」		奉天出発		通称号 満第七三六部隊 強第一三一〇八部隊		
少佐 中 村 豊 悟 (終戦時)		奉天に集結奉天第四〇作業大隊に編入		撫順において武装解除		軍令陸甲第一三五号により編成下令		
		停戦、現地召集者召集解除		日「ソ」開戦		奉天省撫順において編成完結		
		撫順において武装解除		教育召集実施引続き警備召集		同地付近の警備、諫下特設警備隊の教育を実施		
						摘要		

2669

				昭 20	昭 19	年 月 日	特設警備第六〇二中隊 略歴 通称号 強第二六九二部隊	
			8	8	8			1
			18	15	10			4
	中隊長 中尉 伊藤 登	部隊解散	停戦	警備召集を実施	実施	軍令陸甲第一号により奉天省撫順において編成 常置人員不詳、爾後同地付近の在郷軍人を短期間教度にわたり召集し教育を	概要 要	
							摘要	

十一の外

2670

昭			昭	年 月 日	特設警備第六〇三工兵隊 略歴 通称号 強第三一五七部隊
20			19		
8	8	8	9		
	19	15	14	8	概要 奉天省撫順において編成 常置人員（将校一名、下士官三名） 爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施 警備召集を実施 停戦 部隊解散
隊	長	少尉	真船	涉	
					摘要

2671

			昭 20	昭 19	年 月 日	
			8	8		10
			21	15		11
昭 20 8 21 部隊解散 昭 19 8 15 停戦 昭 11 1 以降終戦時まで に警備召集を 実施している が細部不詳			昭 19 11 軍令陸甲第一三五号により奉天省鞍山において編成（人員約四三名） 同地付近の警備隷下特設警備隊の教育を実施		鞍山警備隊本部 略歴 通称号 満第二九二部隊 強第一三〇九部隊	
隊 長 大佐 上田利三郎			概要 要		摘要	

十二の列

2672

	昭 20	昭 19	年 月 日	特設警備第六〇一中隊 略歴 通称号 強第二六九一部隊
	8	8	1	
	8	8	4	
中隊長 中尉 中条善蔵 部隊解散	20 15 10	爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施 警備召集を実施 停戦 士官三名） 軍令陸甲第一号により奉天省鞍山において編成、常置人員四名（将校一名下	概要 要	
				摘要

2673

昭			昭		
20			19		
年	月	日	年	月	日
	8	8		8	9
	20	15		14	8
<p>特設警備第六〇五工兵隊 略歴</p> <p>通称号 強第三一六〇部隊</p>					
<p>隊 長 少 尉 岡 本 武 雄</p>			<p>概要</p>		
<p>鞍山にて部隊解散</p>			<p>要</p>		
<p>停戦</p>			<p>警備召集を実施</p>		
<p>爾後同地付近の在郷軍人を短期間教度にわたり召集し教育を実施</p>			<p>一名、下士官三名)</p>		
<p>軍令陸甲第一二八号により奉天省鞍山において編成、常置人員四名(将校</p>			<p>摘要</p>		

2674

至 自		昭		昭		年 月 日	概 要		
12	11	10	9	9	8			8	6
2	26	11	27	3	24	13	16	19	
中隊長 佐藤倉蔵		黒河経山入「ソ」		錦県第一作業大隊に編入		錦県に集結		阜新において武装解除	
		錦県出発		錦州省阜新に移駐		爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施		警備召集を実施	
								軍令陸甲第四六号により奉天において編成 常置人員四名(将校一名、下士官三名)	
								通称号 強第二六九六部隊	
								特設警備第六〇六中隊 略歴	
								摘要	

2675

昭			昭	年月日	特設警備第六〇二工隊 略歴
20			19		
8	8	8	9		
	19	15	13	8	通称号 強第三一五四部隊 概要 軍令陸甲第一二八号により奉天において編成 常置人員六名(将校一名、下士官五名) 第六二兵站警備隊の兵舎を共用し、第六二兵站警備隊が教育を担当し、同地 付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施 警備召集を実施 停戦 部隊解散 隊長 少尉 野々宮 義一
					摘要

2676

昭和					年月日	特設警備第六〇六工兵隊略歴	通称号 強第三一六八部隊		
9								概	要
8	8	8	8	8					
	20	15	13	9					
		部隊解散	停戦	警備召集実施	日「ソ」開戦	爾後同地付近の在郷軍人を短期間教度にわたり召集し教育を実施	下士官三名)		
	隊	長	中尉	諸橋	弘				
							摘要		

2677

				昭 20	昭 19	年 月 日	特設警備第六〇七工兵隊 略歴 通称号 強第三一六九部隊	
			8 8 8	9	8			概
			18 15 10	8	8			
			部隊解散	停戦	警備召集実施		要	
			隊長 中尉 伊藤喜貞				要	
							摘要	

2678

年月日	概	摘要
昭 19 20		
1 8 8		
4 16 15		
	<p>軍令陸甲第一号により奉天において編成 常置人員五名(将校一名、下士官四名) 爾後同地付近の在郷軍人を短期間教度にわたり召集し教育を実施 警備召集を実施(奉天周辺より約六〇〇名召集) 部隊解散</p> <p>隊長 少尉 巖 顕 吉</p>	

特設警備第六五二大隊 略歴

通称号 強第三一六二部隊

2679

550	昭	昭	年 月 日	特設警備第六五三大隊 略歴 通称号 強第三一六三部隊	
	20	19			
	8 8	1			
	20	15	4	概 要	
部隊解散	警備召集を実施 爾後同地付近の在郷軍人を短期間教度にわたり召集し教育を実施 常置人員五名（将校一名、下士官四名） 軍令陸甲第一号により奉天において編成				
	隊長	中尉	平賀	解輔	摘要

2680

至 自		至 自		昭 19		年 月 日	概 要	摘 要	
11	8 8 8	7 7	6 4						
15	18 17 9	21 9	10 19						
海拉爾第一、第二作業大隊に編入		集結。		戦闘行動を中止し主力は二地区陣地において武装解除後海拉爾兵器廠に		關に参加、その間多数の戦死傷者をだした。		主力は海拉爾二地区陣地、一部は藤田少尉指揮により三地区において戦	
		の指揮下に入る。		たが「ソ」軍進攻急のため同地二地区陣地に入り独立混成第八〇旅団長		防衛召集（約一七〇名）を実施して大隊を編成、直ちに市内警備に任じ		八月九日教育を終了したが日「ソ」開戦となつたので召集解除を取止め引続	
		教育召集約八〇名は独立歩兵第五八五大隊		教育召集約六五名は独立歩兵第五八五大隊		爾後同地付近の在郷軍人を短期間教度にわたり召集し教育を実施		興安北省海拉爾において編成完結。常置人員（将校一名、下士官四名）	
		軍令陸甲第四六号により編成下令		軍令陸甲第四六号により編成下令					

特設警備第六〇六大隊

通称号 強第二六〇六部隊

概

要

摘 要

2681

						昭 20	至	自	至	自
			8	8	8	11	11	11	11	11
		9 中旬	21	18	17	25	18	18	15	
		博克図出 満洲里經由入「ソ」	興南東省博克図において同地第五作業大隊に編入。		牙克石着	南屯着	中多数の戦死行方不明者をだした。		藤田少尉以下三地区派遣隊は同地陣地を脱出したがその後博克図方面に後退途中多数の戦死行方不明者をだした。	
			隊長 少佐 坂水悟郎		満洲里經由入「ソ」		海拉爾出発			

一の内

至 自 至 自 至 自											昭 20		年 月 日	電信第五四連隊略歴 通称号 滿第五七九七部隊 強第三七八〇九部隊										
											7	7			概									
											10	10				要								
至 自 至 自 至 自											10	5	18	16	10		8	6	19	18	15	9	30	10
奉天出発 奉天第三一、第三二作業大隊に編入 奉天（東北大学）において武装解除 文官屯へ移動 現地召集者を召集解除 停戦 奉天において日「ソ」開戦、開戦とともに各中隊は東陵において作戦準備 結 奉天省奉天において関東防衛軍臨時通信教育隊よりの要員を基幹として編成完 軍令陸甲第一〇六号により編成下令																								
黒河経由入「ソ」																								

2683

552の2

連隊長
少佐
桑原
等

2684

昭 昭 至 自													昭	年、月、日	建築勤務第三四中隊略歴	
20 19													16			
8	8	8	8	6	5	11	9	8	8	8	8	7	7		概	要
20	18	17	15	9	15	18	11	25	20	16	14	30	16			
奉天北陵において武装解除 奉天に帰還 各小隊はそれぞれの位置を出発 停戦 日「ソ」開戦 第一小隊は錦西、第二、第三小隊は葉柏樹に移動													奉天に移駐同日より同地付近の警備および建築作業 東安省鶏寧に到着同地付近の警備	大連港上陸、同日関東州界通過 宇品港出帆 仙台出発	特臨編第一六令附第一〇二号により編成下令 仙台において野砲第二連隊より基幹要員を抽出し編成完結	通称号 強第三三〇二部隊

2685

至 自			
	10	9	9
	15	30	14 10
奉天第一七作業大隊に編入 奉天出發 黒河経由入「ソ」			
中隊長 大尉 関根五郎			

2686

昭 20										昭 20
8	8	8	7	3	9	8	8	8	7	7
22	15	9	28	25	3	22	15	9	28	20
<p>第七九兵站警備隊の改編によりその主力をもつて臨時独立歩兵第九〇一大隊を編成し、本部第二中隊は大連市周水子。第一中隊は金州、第三中隊は貔子窩第四中隊を旅順の警備のため派遣</p> <p>本部第二中隊 大連市周水子着、同地付近の警備</p> <p>日「ソ」開戦 停戦</p> <p>周水子において武装解除</p> <p>大房身に移動、「ソ」軍命により旅大地区において諸作業に従事</p> <p>大連港出帆帰還。</p> <p>第一中隊 金州着同地付近の警備</p> <p>日「ソ」開戦 停戦</p> <p>金州において武装解除。爾後「ソ」軍の命により旅大地区の諸作業に従事</p>										<p>臨時独立歩兵第九〇一大隊略歴</p> <p>通称号 強第一三一四〇部隊</p>

二の内

2687

昭 22						昭 20						昭 20	昭 22
3	8	8	8	7	7	3	9	8	8	8	7	3	
26	22	15	9	28	26	26	8	24	15	9	28	25	
<p>大連港出帆帰還</p> <p>第三中隊</p> <p>関東州緄子窩着、同地付近の警備</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>停戦</p> <p>金州に集結、武装解除</p> <p>大房身に移動、「ソ」軍命により旅大地区において諸作業に従事</p> <p>大連港出帆帰還</p> <p>第四中隊</p> <p>関東州旅順へ移動のため出発</p> <p>旅順着、同地付近の警備</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>停戦</p> <p>水師営において武装解除。爾後旅大地区において「ソ」軍の諸作業に従事</p> <p>大連港出帆帰還</p>													
<p>隊長 大尉 若杉 東</p>													

二の外

昭 昭													年 月 日	概 要	摘 要												
20 21																20											
9	1	10	10	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	12	8	17	16	22	21	20	18	15	13	10	9	30	28
														特臨編第五三号により編成下令													
														間島省延吉において編成完結													
														日「ソ」開戦													
														延吉出発、梅河口に移動途中吉林において新京防衛の命をうけ新京に移動													
														吉林省新京着													
														新京において停戦													
														新京出発													
														公主嶺に到着													
														現地応召者を召集解除													
														主力は公主嶺において、一部は四平において武装解除													
														公主嶺第一三作業大隊に編入													
														公主嶺出発													
														黒河經由入「ソ」													
														四平において武装解除した一部の者は四平第一二、第一四作業大隊等に編入そ													

第三〇軍司令部略歴

通称号 敏第二五三〇一部隊

れぞれ九月十五日、九月二十六日四平 出発九月二十五日及九月二十七日黒河経
由入「ソ」

司令官 中将 飯田 祥二郎

		昭 20		年 月 日			
		9	9	8	8	8	7
		17	9	29	20	15	10
				6 中旬		2	1
						20	16
<p>司令官 中将 今利龍雄</p>		<p>通称号 満第二五〇部隊英機第一五二四一部隊</p>					
		<p>概要 軍令陸甲第九号により編成下令 黒河省神武屯において第五七師団の一部の人員および第七、第一三國境守備隊の人員をもつて編成完結。爾後同地付近の警備 神武屯より通化に移駐 より隸下各隊の編成業務実施 通化において停戦 通化において武装解除 通化出發吉林着。同地において吉林第二〇五作業大隊および各吉林作業大隊に編入 吉林出發 黒河經由入「ソ」</p>					
		<p>摘要</p>					

2691

										昭 20	
										年 月 日	
										8	1
										9	16
<p>通称号 満第五六部隊英機第一五二三六部隊</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令 黒河省法別拉において第一三國境守備隊を基幹として編成完結。爾後同地付近國境地区の警備 黒河省瑗琿に移駐のため法別拉出發 瑗琿着 通化省通化に移駐のため瑗琿出發 通化着 軍令陸甲第一〇六号により編成改正下令 通化において編成改正完結。歩兵第二七六連隊および歩兵第三八八連隊に各々約五〇〇名その他司令部挺進大隊に転出しその不足人員は在満現地応召者をもつて充足した。爾後同地付近において陣地構築。 第一大隊(第二中隊を除く)は柳河地区に配備したが停戦により八月二十日通化に復歸し爾後主力と同行動した。 第二中隊は四平省八宝付近の警備中停戦となり八月二十七日八宝より通化に復</p>											
										概 要	
										摘 要	

歩兵第二七五連隊略歴

2692

至	自	至	自	至	自
9	9	9	9	8	8
26	25	18	5	1	30
<p> 歸、爾後主力と同行動。 通化において武装解除現地応召者の大部は召集解散 吉林省吉林に集結 主力は吉林において吉林第二〇七、第二〇八、作業大隊を編成 黒河經由入「ソ」 連隊長大佐 瀬川正雄 </p>					

内
匹

歩兵第二七六連隊略歴

通称号 英機第三七八〇一部隊

		昭和		昭和		昭和		昭和		年月日	概要	摘要
		9	9	8	8	8	8	8	7			
		17	9	29	26	23	15		5	7	16	
連隊長 大佐 岡野 薫		<p>軍令陸甲第九号により編成下令 編成着手 通化省通化において歩兵第二七五連隊および独立混成第八〇旅団歩兵部隊の人員を基幹として現地応召者をもつて編成完結。爾後通化地区の警備に任ずると共に柳河付近の陣地構築 停戦 通化において武装解除現地応召者の大部は解散 通化出発 吉林省吉林に集結 同地において吉林第二〇二作業大隊に編入 吉林出発 黒河經由入「ソ」</p>										

										昭	
										20	
										年	
										月	
										日	
										8	7
										17	9
										29	8
										26	8
										23	8
										20	8
										15	8
										5	10
<p>隊長 大佐 今田 茂</p> <p>黒河經由入「ソ」</p> <p>吉林出発</p> <p>吉林第二〇二作業大隊に編入</p> <p>通化出発</p> <p>通化において武装解除</p> <p>同地において現地応召者を召集解除</p> <p>停戦</p> <p>近の警備および陣地構築中日「ソ」開戦となる。</p> <p>通化省通化において歩兵第二七五連隊および北支軍ならびに独立混成第八〇旅</p> <p>團歩兵部隊からの転入者を基幹とし現地応召者をもつて編成完結。爾後同地付</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>										概	
										要	
										摘	
										要	

歩兵第三八八連隊略歴

通称号 英機第三七八〇二部隊

概

要

摘要

2695

										昭	
										20	
										年	
										月	
										日	
		9	9	9	8	8	8	8		8	7
		26	19	18	29	26	20	15		5	10
<p style="text-align: right;">第一二五師団挺進大隊 略歴</p> <p style="text-align: center;">通称号 英機第三七八〇三部隊</p>											
概											
要											
摘要											
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p> <p>通化省通化において歩兵第二七五連隊、第一二五師団通信隊及工兵第一二五連隊からの転入者を基幹とし原地応召者をもつて編成完結。爾後本部および第三中隊は通化に、第一中隊を孤山子に、第二中隊を五道溝に、各々配備し陣地構築停戦により第一、第二中隊は本部に合流。</p> <p>通化（通化師範学校）において武装解除現地応召者の大部は解散。</p> <p>通化出発</p> <p>吉林に集結</p> <p>吉林第二〇七作業大隊に編入</p> <p>吉林出発</p> <p>黒河經由入「ソ」</p> <p style="text-align: right;">隊長 大尉 杉原 国夫</p>											

2696

至 自		至 自					昭	
							20	
9	9	9	9	9	8	8	8	7
15	15	9	15	1	30	20	25	23
							5	10
吉林第二〇三、第二〇二作業大隊に編入		吉林第二〇三、第二〇二作業大隊に編入					軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
吉林第二〇三作業大隊に編入された者は吉林出發		吉林第二〇三作業大隊に編入された者は吉林出發					通化省通化において在滿各隊よりの転入者を基幹として在滿現地応召者をもつて編成完結。爾後通化北方五道溝、柳河鎮付近において陣地構築。	
黒河經由入「ソ」		黒河經由入「ソ」					停戦。爾後現地応召者の大部は解散。	
吉林第二一一作業大隊に編入された者は吉林出發		吉林第二一一作業大隊に編入された者は吉林出發					通化において武装解除	
		主力は列車輸送により通化出發						
		吉林に到着後豊満ダムの破壊作業に従事。連隊長の指揮する一二四名は馬輪送のため八月三十日通化出發約二週間後吉林に到着した。						
							概要	
							要	
							摘要	

野砲兵第一二五連隊略歴

通称号 英機第三九八〇四部隊

概

要

摘要

2697

57602

	昭
	21
	4
	20
	璉 春 経 由 入 「 ソ 」
	連 隊 長 少 佐 横 山 秋 蔵

2698

昭 20		至 自											
年 月 日		9	9	9	8	8	8	8	7	7	7	2	1
		15	9	1	23	20	15	5	10	12	8	20	16
工兵第一二五連隊略歴 通称号 英機第一五二三九部隊満第二六五部隊		概要											
		要											
摘要		<p>軍令陸甲第九号により編成下令 第七、第一三国境守備隊の人員をもつて山神府において第一二五師団工兵隊を 編成。爾後同地付近の警備 通化に移動、爾後同地付近の警備 軍令陸甲第一〇六号により編成改正下令 通化において在満応召者と第一二五師団工兵隊の人員をもつて工兵第一二五連隊 を編成。 停戦 通化において武装解除 同日吉林省吉林に集結 吉林第二〇三作業大隊に編入 吉林出発 黒河經由入「ソ」</p>											

		昭和20年		年月日		概		要		摘要		
		9	9	9	8	8	8	8	6	2	1	
		15	9	1	30	27	20	15	17	20	16	
隊長 大尉 近藤 豊 信		<p>通称号 英機第一五二四二部隊 満第四八二部隊</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令 黒河省神武屯において第五七師団通信隊および第七、第一三國境守備隊の人員をもつて編成完結。</p> <p>通化省通化に移駐。爾後同地において通信業務および陣地構築</p> <p>停戦</p> <p>同地において武装解除</p> <p>通化出發</p> <p>吉林省吉林に集結</p> <p>吉林第二〇三作業大隊に編入</p> <p>吉林出發</p> <p>黒河經由入「ソ」</p>										

2701

昭						昭		年 月 日	輜重兵第二二五連隊略歴
21						20			
4	9	9	8	8	8	7			
20						10		概	
<p>間島省琿春經由入「ソ」</p> <p>吉林着。同地において吉林第二一一作業大隊に編入、同日吉林出發</p> <p>吉林省吉林着。一部馬輸送のため九月一日通化出發</p> <p>通化において武装解除。部隊の大部は列車輸送にて通化出發。</p> <p>通化において停戦現地応召者の大部は解散</p> <p>して在満応召者をもつて編成完結。爾後同地付近の警備。</p> <p>通化省通化において第六三師團輜重隊および在満各部隊よりの転入者を基幹として在満応召者をもつて編成完結。爾後同地付近の警備。</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>						<p>通称号 英機第三七八〇六部隊</p>			要
								<p>連隊長 中佐 長井 洗</p>	

2702

		年 月 日		昭 20	
		9	9	8	7
		15	9	23	10
<p>隊長 中尉 山本一郎</p>		<p>通称号 英機第三七八〇七部隊</p>			
		<p>第一二五師団兵器勤務隊略歴</p>			
		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>			
		<p>通化省通化において第一九野戦兵器廠よりの要員を基幹として現地応召者をもつて編成完結。爾後同地付近の警備ならびに陣地構築</p>			
		<p>停戦</p>			
		<p>通化において武装解除現地応召者の大部は解散</p>			
		<p>通化出発</p>			
		<p>吉林省吉林集結</p>			
		<p>吉林第二〇五作業大隊に編入</p>			
		<p>吉林出発</p>			
		<p>黒河經由入「ソ」</p>			
		<p>概要</p>			
		<p>摘要</p>			

2703

		昭 20						
		年 月 日						
		9	9	9	8	8	8	8
		15	9	1	28	23	15	5
隊長 獣医大尉 小川 俊 男		<p>通称号 英機第三七八〇八部隊</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p> <p>通化省通化において歩兵第二七五連隊からの転入者を基幹として現地応召者を もつて編成完結。爾後同地付近の警備</p> <p>停戦</p> <p>通化において武装解除後現地応召者は解散</p> <p>吉林省吉林に移動</p> <p>吉林第二〇三作業大隊に編入</p> <p>同地出発</p> <p>黒河經由入「ソ」</p>						
		概要						
		要						
		摘要						

2704

昭 20		至 自													
年	月	日	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
			10	10	30	9	11	15	19	23	28	15	19	20	18
概		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令 吉林省盤石において全滿各隊から編入の基幹要員と在滿応召者をもつて編成完結。爾後盤石付近の警備日「ソ」開戦 鉄道輸送により奉天省撫順に移動 同地において停戦 現地応召者召集解除 撫順において武装解除 撫順出發、同日奉天着。 奉天において作業第三七大隊に編入 奉天出發 黒河經由入「ソ」</p>													
要		<p>司令官 中将 山中 務</p>													
摘要															

第一三八師団司令部略歴

通称号 不動第三七二六〇部隊

2705

昭											年 月 日	歩兵第三七七連隊略歴 通称号 不動第三七二六七部隊																																																																																																																																													
10	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8			7	7																																																																																																																																											
17	17	15	13	12	1	29	19	15	13	9	30	10	概要	要	摘要																																																																																																																																										
黒河經由入「ソ」											奉天出発											奉天において第三九作業大隊編入											奉天着（北陵）											行軍により撫順を出発											撫順から新屯に移動、同地に集結											撫順中学において武装解除											現地応召者召集解除											停戦											奉天省撫順に移駐											日「ソ」開戦											完結。爾後盤石付近の警備											吉林省盤石において機動一旅団から転入の基幹人員と在満応召者をもつて編成											軍令陸甲第一〇六号により編成下令										

2706

歩兵第三七八連隊略歴

通称号 不動第三七二六八部隊

584												
昭 20												
年月日												
9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	
18	5	29	23	22	19	15	14		12	9	30	10
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令 奉天省双河鎮において機動一旅団から転入の基幹人員と在満応召者をもつて編 成完結。爾後双河鎮において警備 日「ソ」開戦 第二大隊は撫順に移動、第一三八師団長の指揮下に入り同地の警備八月十九日 現地応召者召集解除 主力双河鎮を出発、同日南雑木着 停戦 主力部隊の現地応召者召集解除 撫順に移動し同地で第二大隊を掌握。奉天出発。 奉天七条女学校において武装解除。 新民に移動 奉天移動 第四一作業大隊に編入同日同地を出発</p>												
概要												
要												
摘要												

2708

	10
	16
	黒河経由入「ソ」
	連 隊 長 少 佐 赤 尾 今 幹 雄

		昭和20年		7月		7日		7日		7日	
		10		9		9		8		8	
		17		17		14		30		29	
		17		17		14		30		29	
連隊長 少佐 加藤恒平		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p> <p>吉林省朝陽鎮において機動一旅団から転入の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。爾後同地付近の警備。</p> <p>日「ソ」開戦に伴い奉天防衛の任務を受け朝陽鎮を出発したが途中撫順防衛の命を受け奉天省南雑木に下車待機中停戦となる。</p> <p>南雑木において停戦</p> <p>現地応召者召集解除。南雑木出発、同日撫順着</p> <p>撫順市朝日国民小学校において武装解除</p> <p>新屯着、同地に集結</p> <p>新屯出発、同日奉天着</p> <p>奉天出発</p> <p>黒河經由入「ソ」</p>									
		<p>通称号 不動第三七二六九部隊</p>									
		概要									
		摘要									

歩兵第三七九連隊略歴

2710

昭 20										年 月 日	第一三八師団挺進大隊略歴 通称号 不動第三七二七〇部隊
9	9	8	8	8	8	8	8	7	7		
16	14	30	29	19	15	12	9	30	10	要	摘要
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令 吉林省新吉林において機動一旅団から転入の基幹人員と在満応召者をもつて編 成完結。爾後新吉林付近の警備。 日「ソ」開戦 主力は撫順に移動のため吉林出発。同日磯部少尉以下一二名は設営隊として奉 天省新台子に向け吉林出発 主力は撫順に到着と同時に永安小学校に集結。同日設営隊は新台子着停戦とな る。 設営隊は新台子出発撫順において部隊と合流。同地において現地応召者召集解 除。 撫順出発 新屯着、新屯小学校に集結、同時に武装解除 新屯出発、同日春天着 同地において主力は第三九作業大隊その他は同地編成の各作業大隊に分散編入</p>											

2711

	10 9
	17 17
<p>隊長 大尉 吉住 龜吉</p>	<p>奉天出發 黒河經由入「ソ」</p>